

令和5年度 防衛大学校入校式
久保 防衛大学校長式辞

本日、ここに令和5年度の入校式を挙行できることを心より喜びたいと思います。本科第一学年、研究科前期・後期の皆さん、入校誠におめでとうございます。心より歓迎いたします。

本年度は、本科第71期522名、理工学研究科前期課程53名、同後期課程11名、および総合安全保障研究科前期課程20名、同後期課程3名、の学生諸君を迎えることができました。

また、本年も、アジア諸国から数多くの優秀な留学生諸君をお迎えしています。本年度、本科に入校予定となっているのは、10か国からの23名、および理工学研究科前期課程に3名、同後期課程に1名の諸君であります。

寝食を共にする本校での生活は、留学生諸君にとって容易なものではないと想像しますが、これまでほとんどの留学生は立派に卒業されてきました。異なった文化に接触することで、日本人学生も大いに触発されてきました。

そして今、母国で活躍する卒業生の皆さんは、防衛大学校が、そしてわが国が誇るべき貴重な資産となっています。留学生諸君には、日本人学生と切磋琢磨しつつ、ぜひ卒業まで頑張ってくださいと思っています。

本日の入校式にあたりまして、井野俊郎副大臣をはじめ多数のご来賓のご臨席を賜りました。また、本日ご列席いただいている新入生のご家族の皆様、改めて誠におめでとうございます。

さらに本日は、防大が実施しているホームカミングデー行事として、約60年前に入学された、皆さんの大先輩である防大卒業生第10期、11期生諸氏にもご参加いただいています。

OB諸氏におかれましても、多数の若者が幹部自衛官を志してOB諸氏の後につき、防大の門を叩いてくれたことに対し、心より嬉しく思うとともに、頼もしく感じているに違いないと想像いたしております。

本校入校式は昨年まで3年間お客様をお迎えできない中で開催してまいりましたが、本年はこうしてかなり平常に近い形で開催できることになりました。平常への復帰を皆様とともに喜びたいと思います。

さて、自衛官としてわが国の安全保障のために人生を捧げるという決意をもって本校に入学された皆さんには、心より敬意を表したいと思います。ぜひこの崇高にして重要な任務を全うしてください。

幸いなことに、近年、自衛隊は各種世論調査等で信頼できる組織として高い評価を得るに至っています。これは、ひとえに、戦後の民主社会日本において、戦前と異なる環境の中で新たな自衛官のあり方を模索されてこられた先輩自衛官の皆様による長年の努力の賜物であります。

幸運なことに、本日入校された諸君はこれを土台に出発することができます。

ただし、残念ながら日本を取り囲む安全保障環境は顕著に悪化しています。自衛隊に対する期待は高まっていますが、同時に責任も増しています。

ぜひともこの期待に応えるべく、精進していただければと思います。

これからの4年間、ぜひこれからお話するいくつかのことに留意して頑張ってくださいたいと思っています。

1つ目は、広く学ぶことです。

科学技術について正確な理解をもつことが重要です。まさに日進月歩の世界であります。安全保障の分野でも、宇宙、サイバー、電磁波など、新しい分野がますます必要とされています。

同時に歴史や社会科学も勉強して欲しいと思います。歴史といった場合、もちろん戦史も重要ですが、さらにより広く人類の歩みを振り返ることも重要かと思っています。

そしてその際には、民主主義の歴史と民主主義の意義についてもしっかりと学んでほしいと思います。

また、忙しい防大生活ではありますがなるべく多数の本を読んでもらいたいと思っています。

2つ目は、人間を磨こうということです

自衛隊に入りますと、少しずつ階級が上がり、部下ができ、その数も増え、命令に従う人の数は増えます。権限に基づいて発した正当な命令に従うのが組織のあり方です。

ただ、私としては、皆さんに、そのような権限だけに寄りかかるのではなく、それがなくとも部下が自ずとついてくるような指導者になることを目指して貰いたいと思っています。

そのためには知識だけでなく、部下を含めて他人の気持ちを理解する力、あるいは自分の怒りの気持ちを抑える能力も必要です。人の気持ちを理解する態度は、例えば災害救助に入ったとき、被災者の状況を理解する際にも必要かと思えます。ぜひ広い意味での人間力を磨いていただければと思います。

3つ目としては、広く学ぶことを越え、さらに広い視野を持つて欲しいということです。

皆さんは残念ながら学外でのアルバイトや就職のためのインターンシップをすることはできません。しかし本校としては、海外留学、校外研修、国際会議や国際競技会、国内他大学との交流など、さまざまな機会を用意して、皆さんが、過度に防大・自衛隊の世界に閉じこもることがないように努力しています。皆さんの方も、積極的にこのようなチャンスに応募して、外の世界を知るように心がけてください。

先輩たちほとんどが困難を乗り越えて防大を見事卒業していきました。皆さんにもぜひ頑張っけて欲しいと思います。防大生活は「厳しい」と思われることが多いかと思いますが、実は楽しい行事も多数あり、また一般大学では得られない充実感・達成感も存在します。

実際、諸君の先輩の多くが振り返って、防大生活は実に楽しかったと言ってくれます。その根拠のかなりの部分が、一生の友人を得ることができたということにあります。これは自分の人生を、国民に国民を守るために捧げる決心をした若者同士の友情であります。

陸海空と職場は分かれてもつきあいは続き、さらに現在は統合運用の時代です。一緒に仕事をする場面も増えています。

本日入校した皆さんがこの4年間で、防大でしか得られない充実し、かつ楽しい学生生活を送れることを願って、入校式での学校長式辞とさせていただきます。

令和5年4月5日
防衛大学校長 久保文明